

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

2023年度日本陸上競技連盟 全国競技運営責任者会議報告

2024年2月12日(月・休)に2023年度全国競技運営責任者会議をオンラインにて開催いたしました。

JTOs研修会報告

2024年1月28日(日)にJTOs研修会を、オンラインにて開催いたしました。

日本陸上競技連盟 2023年度全国医務部長会議報告

2024年1月27日に日本陸上競技連盟全国医務部長会議をオンラインで開催いたしました。本会議はコロナ禍前にはナショナルトレーニングセンターの大会議室で開催されていましたが、コロナ禍を経て、諸般の事情もあって、今回もオンライン開催となりました。

第30回JAAFコーチングクリニック開催報告

第30回JAAFコーチングクリニックを2024年1月21日(日)に味の素ナショナルトレーニングセンターウエストおよび国立スポーツ科学センター陸上競技実験場にて開催し、84名(男性72名、女性12名)が参加しました。

■大会観戦ガイド

第48回全日本競歩能美大会

併催 第18回日本学生 20km 競歩選手権大会

兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会

第26回長野マラソン

兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ グレード3

■事務局からのお知らせ

セイコー GGP: キービジュアル第1弾「国立で、世界目撃。」世界の超人が集う熱戦をその目に焼き付けろ!

日本陸連 D&I推進の研修実施

『ダイバーシティ&インクルージョンの推進』

『組織における多様性の意義と「システム思考」アプローチ』

information

- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・WRk対象競技会／広告規程について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2023年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15943/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2025年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



- ・アンチドーピング／鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



2023(令和5)年度 日本陸上競技連盟 全国競技運営責任者会議 議事録

2024年2月12日(月・休) 13:00~16:30 オンライン開催

あいさつ (田崎専務理事)

2025年には、東京で世界陸上が開催される。世界陸上を一つの進化のエネルギーとして、次の世界を作り上げていくことが我々の責務と考える。本日の議論を、具体的な行動に繋げていただきたい。

2024年度競技規則修正提案 (片岡裕委員)

- 世界記録・日本記録について〔CR31、CR34〕
- WRk競技会における同時申込時の運用について〔TR4.3〕
- 参加の拒否の国内運用について〔TR4.4〕
- 許可される助力の要件緩和〔TR6.4.5〕
- スタートおよびフィールド種目での現場の抗議(競技中の抗議)について〔TR8.4、TR8.5〕
- スタートの中止事由の見直し〔TR16.5.3〕
- シードレーン運用方法の変更〔TR20.4〕
- リレーオーダー用紙提出締め切り時間について〔TR24.11〕
- フィールド競技の跳躍・投てき時の靴紐等の扱い〔TR30.1.1、TR32.14〕
- WRk競技会で使用する投てき物について〔TR32.1〕
- 投てき物の個人持ち込み数について〔TR32.2〕

以上を中心に、2024年度の修正箇所について説明が行われた。また、WRk競技会においては必ず適用しなければならないと明記のあるもの、競技者にWA規則よりも多くの権利を与える(有利になる)ものを除き、国内規則の適用で可であるという説明も行われた。

WRk大会について (鈴木委員長)

WRk競技会の申請や運営方法について説明が行われた。

分科会

分科会1では公認競技会申請、日本記録申請、記録用紙改訂、広告展示物規程についての説明が、分科会2ではS級審判昇格審査、審判ハンドブック、WA ブロンズレフェリー養成、JRWJsセミナー・認定試験、2023年度JTOs活動についての報告が行われた。

施設用器具委員会報告 (高木施設用器具委員長)

- WRk大会での投てき物の使用
- ・投てき物のリストにはWA 認証番号と規格(色)を記入する

- ・持ち込みにはWAのシールがあるかどうかで判断。シールがない場合はその証明がされたものを持参する。

海外競技会報告 (関根副委員長)

関根副委員長より、2023年度に派遣された海外競技会についての報告が行われた。

スタート関連 (本橋副委員長)

本橋副委員長より、スタートに関する競技規則の修正についての内容と運用方法について説明が行われた。

競技会報告 (配布資料参照)

日本選手権/U20日本選手権(大阪)、日本選手権混成/U20日本選手権混成(秋田)、インターハイ(北海道)、全中(愛媛)、特別国民体育大会(鹿児島)、U18/U16陸上競技大会(愛媛)

2025年世界陸上について (鈴木委員長)

2025年世界陸上について、開催日程や現在の準備状況、今後の検討課題などの説明が行われた。

事務局安心安全PT (石田局員)

石田局員より、迷惑撮影の実体と対策について、リレー/駅伝のユニフォームについて、ロードレースでの助力および安全対策について説明が行われた。

あいさつ (鈴木委員長)

2024年パリ五輪の選考会に向けて、皆さんのお力をお借りしたい。スタート関連に関しては、今後も様々なご意見を頂戴したいと思う。2024年シーズンもどうぞよろしくお願いいたします。



JTOs 研修会 議事録

2024年1月28日(日) 14:00 ~ 16:15 オンライン会議

あいさつ (鈴木委員長)

今回は、来年度の「ルールの修改正点」、さらに関連する「スタートの問題点」の2点について説明を行い、考えられる問題を協議し、解決に導いていければと考えている。皆様のご意見・お考えをお聞かせ下さい。

競技規則修改正 (片岡裕委員)

- TR4.3 同時申込
 - ・WRkでは規則の原則を適用する(〔国内〕の適用不可)
- TR4.4 参加の拒否
 - ・国内でも適用可能に変更(主催者判断) → 適用する場合は要項・注意事項に記載
- TR6.4.5 許可される助力(フィールド種目の競技者によるビデオ映像確認)
 - ・許可: 競技者が手に持って、操作して確認すること
- TR8.4 トラック種目のスタートに関する現場抗議(競技中の抗議) → 主催者判断に変更
- TR8.5 フィールド種目の現場抗議(競技中の抗議) → 主催者判断に変更
- TR16.5.3 スタートの中止事由の見直し
 - ・現状「ピクつき(局所的な動き)」に対して「警告(イエローカード提示)」としている運用を変更
→ 詳細は「スタート関連について」
- TR20.4 シードレーン
 - ・種目により異なるシードレーンとする
 - ・〔国内〕TR20.4.3 ~ 20.4.5の考え方に加え、従来の考え方を適用しても良い
- TR24.11 リレーオーダー用紙提出締切り時刻
 - ・〔国際〕は変更があるが、〔国内〕変更なし
- TR32.1 WRkで使用する投てき物
 - ・〔国内〕ワールドランキングコンペティションではWAの認証品を使用することができる。但し、WA認証品かどうかの証明は、持ち込んだ競技者が行う。 → 詳細確認中につき、2月の全国会議で明確化する
- TR32.2 個人持ち込み投てき物の数
 - ・〔国際〕は変更があるが、〔国内〕変更なし

※国内でも〔国際〕を適用可能(主催者判断)
例) 日本選手権、WRk等

スタート関連について (関委員)

- 世界陸上のスタート運用における概要
 - ・Setの局所的な動き、他の競技者を邪魔しない、TR16.5につながる動きがなければリコールしなかった。
 - ・局所的な動き(TR16.5.3) 修改正について
2023年WAより修改正。解釈が大幅に修正された。
修改正内容: 「~ Setの合図の後、音声その他の方法で他の競技者を妨害し、その結果、その選手が不正スタートを生じさせた時」YCの対象とする。
- 2/3スターター研修会実施予定
 - ・国内での運用とWAの新しい考え方に大きな溝
→ 将来的に埋めていきたい
 - ・YCを発出するのは他の競技者のスタートに真に影響を与えている時
→ TR16.5.3の運用を「動きに」かなり限定(焦点化)してきた⇒現行での移行がスムーズにいくのか、課題はあるのか等を検討したい。

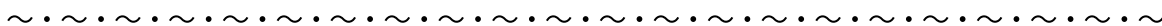
あいさつ (鈴木委員長)

2024年はオリンピックイヤーのため、代表選考に関わる競技会が多く、慎重な競技会運営がなされるところである。JTOの皆さんは様々な競技会に派遣されることになるが、正確な知識を持って競技会運営に当たって欲しい。



日本陸上競技連盟 医事委員会

最後に、日本陸連 真鍋医事委員長より、陸上競技における最近のアンチ・ドーピング規則違反例に関連した注意喚起が行われ、閉会となった。本会議をオンライン開催すると、旅費や宿泊費等の経費がかからずに済むが、ディスカッションがやや盛り上がり欠ける印象があり、face to faceの対面開催の方が望ましいと感じられた。



第30回 JAAF コーチングクリニック開催報告

指導者養成委員会 海老原 有希

第30回JAAFコーチングクリニックを2024年1月21日(日)に味の素ナショナルトレーニングセンターウエストおよび国立スポーツ科学センター陸上競技実験場にて開催し、84名(男性72名、女性12名)が参加した。ここ数年はWeb会議システムを使用したりリモートでの開催となっていたが、4年ぶりに集合講習という形で実施をすることができた。

今回、『指導に新たな視点を～仕組みを知って強くなる～』をテーマとして講義と実技を合わせて5つの講義が用意され、非常に濃密なクリニックとなった。

1つ目の講義では、山本浩氏(日本陸連 指導者養成委員長)より、『見えているか 知っているか～視野を広く～』と題して、陸上競技のみならず他競技のルーツや世界共通のルールとその厳密化に至るまで、他競技から指導の視点を考えるきっかけとなる内容の講義であった。

2つ目の講義では、『臨床医から見たアスリートの消化管』として瓜田純久氏(東邦大学医療センター大森病院 病院長)より、運動誘発性の消化器症状の紹介と食事による腸管の強化は可能なのか、走行時のエネルギー気質、痛みの信号の発信など、日常生活と結びつく身体の仕組みについて理解の深まる内容であった。

3つ目の講義では、『意外と知らない、消化器の働きとパフォーマンス～陸上競技の大敵・おなかの悩み～』として山本委員長をコーディネーターとして瓜田氏、そして自身も長距離選手として世界大会を経験し指導者養成委員も務める市川良子氏を招き、質疑応答の形でト

ークセッションを行った。主に試合に向けてトレーニングと同じように飲食で体内のリズムを整えることの重要性、海外では水に注意すること、時差調整や環境適正に向けて散歩をすることの有効性、試合前の緊張から吐き気が出る時の対処法などについての話題が取り上げられ、受講生は熱心に聞き入っていた。

4つ目の講義では、指導者養成委員の森健一氏から『WA Kids' Athleticsの動向』として昨秋にタイで行われた研修の内容が紹介され、WA(ワールドアスレティックス)の作成している資料やウェブサイトの紹介がされた。受講生にとって国内での取り組みの他に海外の陸上競技の普及について知る良い機会となったのではないだろうか。

5つ目は、『世界に通じるハードリング技術』として山崎一彦氏(順天堂大学教授)から座学と実技を併せた講義が行われた。前半の座学においては、日本のハードルを強くするために行った育成の方法などにも触れつつ、各年代のトップになるための要素が語られた。また、ランチ時間も利用し、より深くハードルの話を伝えていただけたことが印象的であった。後半の実技講習では、泉谷駿介選手(住友電工)がゲスト(アシスタント講師)として登場し、実際のスプリントドリルやハードリング技術を披露し、特に意識しているトレーニングやそのポイントなどを直接受講生に伝える機会が実現した。実技講習中も山崎氏と泉谷選手が笑顔でコミュニケーションをとる場面が多くみられ、受講生から選手とコーチの雰囲気が良いという声も多く出ていた。現代社会におけるコーチングの在り方を体現するものであったように感じる。

本講習会も含め、指導者が学び続ける機会提供を今後も行っていけるよう努めたい。



瓜田純久氏



左から、山本氏、市川氏、瓜田氏



山崎一彦氏



大会観戦ガイド

第48回全日本競歩能美大会

併催 第18回日本学生 20km競歩選手権大会
兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会

▼期日：2024年3月17日（日）

▼コース：日本陸上競技連盟公認能美市営 20km コース
（往復1.0km）

根上総合文化会館前 スタート/フィニッシュ

▼アクセス：JR 能美根上駅から根上総合文化会館までは約700m、徒歩7分

▼種目／競技開始

中学生男子 3km 競歩	8時10分
中学生女子 3km 競歩	8時10分
男子全日本・学生選手権 20km 競歩	8時50分
女子全日本・学生選手権 20km 競歩	10時35分
高校生女子 5km 競歩	12時35分
U20男子 10km 競歩	13時10分
U20女子 10km 競歩	13時10分
高校生男子 10km 競歩	13時10分

▼問合せ先：

第48回全日本競歩能美大会 実行委員会事務局
TEL：0761-58-2273 FAX：0761-55-8555

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1815/>



第26回長野マラソン

兼 ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ
グレード3

▼期日：2024年4月21日（日）午前8時30分スタート

▼コース：長野マラソン長距離競走路（日本陸連公認、AIMS公認）

スタート／長野運動公園（長野市吉田）

フィニッシュ／長野オリンピックスタジアム（長野市篠ノ井東福寺）

▼アクセス：（長野運動公園）しなの鉄道 北長野駅下車 徒歩 約20分 長野電鉄 朝陽駅下車 徒歩 約15分
長野電鉄バス 運動公園線 運動公園下車
上信越道 須坂長野東インターチェンジより 約20分
（長野オリンピックスタジアム）上信越道、長野ICより車で約5分 / 長野道、更埴ICより車で約10分 / JR、しなの鉄道篠ノ井駅東口より車で約10分、徒歩 約40分

▼種目：マラソン（42.195km）

▼問合せ先：大会・競技内容について

長野マラソン大会組織委員会事務局

TEL：026-217-2490 FAX：026-217-2498

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1843/>



事務局からのお知らせ

◆◆セイコー GGP: キービジュアル第1弾「国立で、世界目撃。」

世界の超人が集う熱戦をその目に焼き付けろ!◆◆

2024年5月19日(日)に国立競技場(東京)にて「セイコーゴールデングランプリ陸上2024東京」を開催します。第1弾キービジュアルと特設サイトを公開いたしましたのでお知らせします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19523/>



▼特設サイトはこちら

<https://goldengrandprix-japan.com/>



◆◆日本陸連 D&I推進の研修実施◆◆

「人の多様性を認め、受け入れて活かすこと」を意味するダイバーシティ&インクルージョンを重視している日本陸連では、競技団体としてのダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて、昨年末から関係者の認識や理解を深める研修活動を行っています。

▼『ダイバーシティ&インクルージョンの推進』

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19368/?category=99>



▼『組織における多様性の意義と「システム思考」アプローチ』

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19517/?category=99>



陸連時報編集委員

◇編集委員

尾縣 貢 (陸連会長)
有森 裕子 (陸連副会長)
風間 明 (陸連副会長)
室城 信之 (陸連副会長)
田崎 博道 (陸連専務理事)
山崎 一彦 (陸連強化委員長)
鈴木 英穂 (陸連事務局長)
石井 亮 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869